

地震

地震を知る

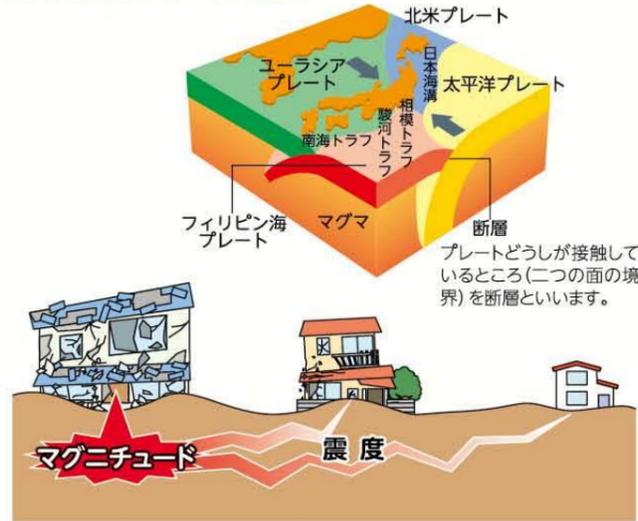
地震発生のしくみ

日本列島の周辺には4つのプレート(板状の堅い地殻)があり、年に数センチの速度で一定の方向に動いています。プレートどうしの運動により、プレートの境界や周辺で生じる「ひずみ」が地震を引き起こす原因です。稲城市の被害想定地震「多摩東部直下地震」は、フィリピン海プレート内が発生場所となる地震です。

■ マグニチュードと震度

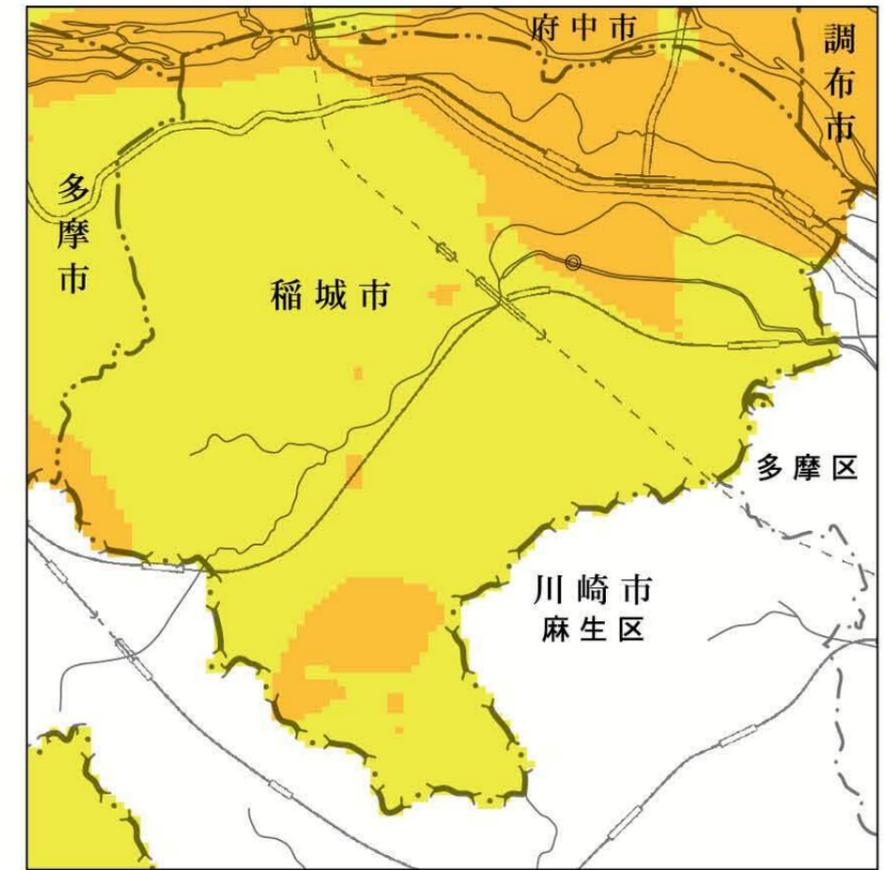
マグニチュードは、地震のエネルギーの規模(大きさ)を表す単位です。マグニチュードの値が1大きくなるとエネルギーは約32倍、マグニチュードの値が2大きくなるとエネルギーは約1,000倍になるという関係があります。震度は、各地点での地震の揺れの強さを表しています。一般的に、マグニチュードが小さくても、震源に近い場合や震源が浅い場合は、震度が大きくなります。

日本周辺のプレートの状況



震度分布図

このマップは、稲城市に最も大きな被害があると想定される「多摩東部直下地震」における震度(地震動の強さの程度を表したもの)の分布を示したものです。



震度と被害想定

震度 7	<ul style="list-style-type: none"> ●固定していない家具が飛ぶこともある。 ●耐震性が高い木造住宅でもまともに傾くことがある。 	
震度 6強	<ul style="list-style-type: none"> ●はわないと動くことができず、飛ばされることもある。 ●耐震性が低い鉄筋コンクリート造建物では倒れるものがある。 ●大きな地割れや大規模な地すべりなどが発生することがある。 	
震度 6弱	<ul style="list-style-type: none"> ●立っていることは困難。 ●ドアが開かなくなることがある。 ●壁のタイルや窓ガラスが破損し落下することがある。 ●耐震性が低い木造建物は傾いたり倒れる物もある。 	
震度 5強	<ul style="list-style-type: none"> ●固定していない家具が倒れることがある。 ●補強されていないブロック塀が崩れることがある。 ●自転車の運転は困難。 	
震度 5弱	<ul style="list-style-type: none"> ●大半の人が恐怖を感じる。 ●棚にある食器や本が落ちることがある。 ●固定していない家具が移動することがあり、不安定なものは倒れる。 	

震度 4	<ul style="list-style-type: none"> ●眠っている人のほとんどが目覚ます。 ●座りの悪い置物が倒れることがある。 	
震度 3	<ul style="list-style-type: none"> ●屋内にいる人のほとんどが揺れを感じる。 ●棚にある食器類が音を立てることがある。 	
震度 2	<ul style="list-style-type: none"> ●屋内で静かにしている人の大半が揺れを感じる。 ●電灯などのつり下げ物がわずかに揺れる。 	
震度 1	<ul style="list-style-type: none"> ●屋内で静かにしている人の中には揺れをわずかに感じる人がいる。 	
震度 0	<ul style="list-style-type: none"> ●人は揺れを感じない。 	

長周期地震動

長周期地震動は、大地震で生じる周期(揺れが1往復するのにかかる時間)の長いゆっくりとした大きな揺れのことです。長周期地震動により、高層ビルは大きく揺れ続けることがあります。また、長周期地震動は遠くまで伝わりやすい性質があり、震源から数百km離れた地域でも大きく長く揺れることがあります。

■ 長周期地震動階級

長周期地震動階級とは、高層ビル内における、地震時の人の体感・行動や、家具等の移動・転倒などの被害の程度から4つの段階に区分した揺れの大きさの指標です。

<p>階級 1</p> <ul style="list-style-type: none"> ●室内にいたほとんどの人が揺れを感じる。驚く人もいる。 ●ブラインドなど吊り下げものが大きく揺れる。 	<p>階級 2</p> <ul style="list-style-type: none"> ●室内で大きな揺れを感じ、物につかまらなさと感じる。物につかまらなさと歩くことが難しいなど、行動に支障を感じる。 ●キャスター付きの家具類等がわずかに動く。棚にある食器類、書棚の本が落ちることがある。
<p>階級 3</p> <ul style="list-style-type: none"> ●立っていることが困難になる。 ●キャスター付きの家具類等が大きく動く。固定していない家具が移動することがあり、不安定なものは倒れることがある。 	<p>階級 4</p> <ul style="list-style-type: none"> ●立っていることができず、はわないと動くことができない。揺れにほんろうされる。 ●キャスター付きの家具類等が大きく動き、転倒するものがある。固定していない家具の大半が移動し、倒れるものもある。

出典：気象庁リーフレット「知ってる?長周期地震動のこと」

液状化現象

液状化は、地下水を含む地盤が強い揺れによって地盤全体がドロドロの液体のような状態になる現象です。主に同じ成分や同じ大きさの砂からなる土が、地下水で満たされている場合に発生しやすいといわれています。

液状化が発生すると、地盤から水が噴き出す、水よりも比重が重い建物等に沈下や傾きが生じる、水の比重よりも軽い下水道のマンホール等が浮き上がる、といった現象が発生します。

液状化のメカニズム



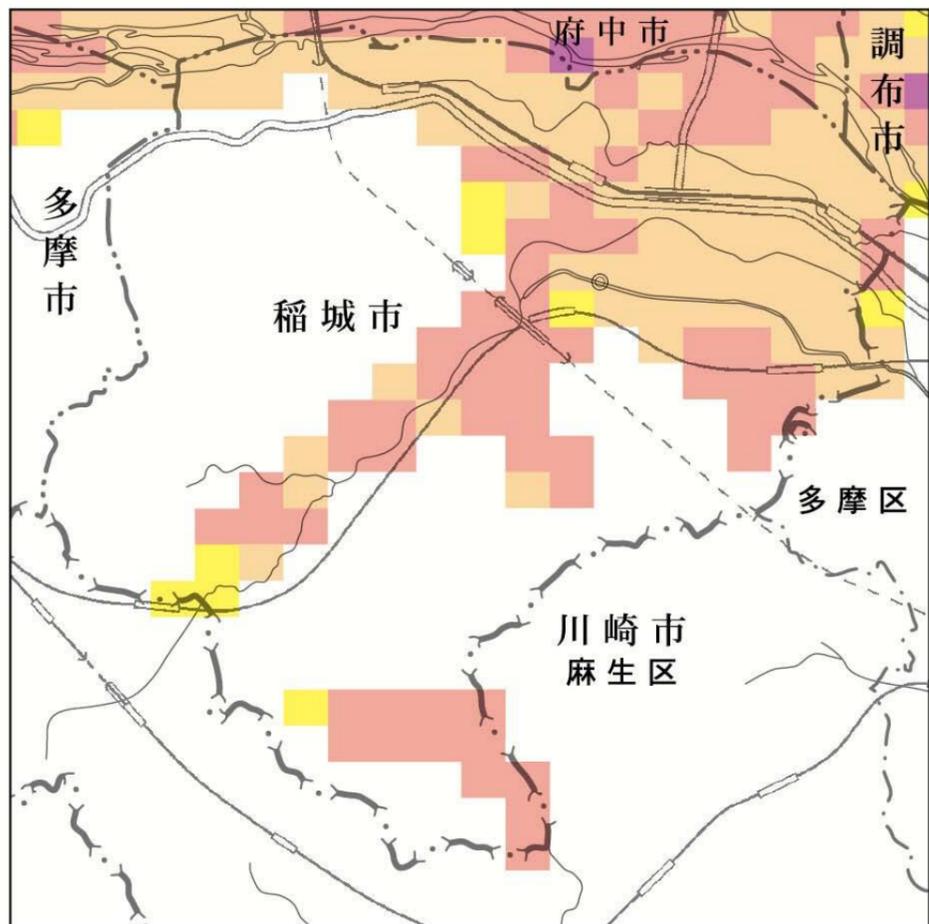
地震前
地盤の隙間に多くの水を含みながらも砂の粒子同士が接触し、建築物を支えています。

地震中
砂の粒子がバラバラになり、水に浮いた状態になります。

地震後
バラバラになった砂の粒子が沈み、地面に水が出たり、地面の裂け目から砂まじりの泥水が吹き出したりします。
このような状態になると、その地盤は建築物を支えられなくなり、建築物は土の中に沈み込んだり倒壊するおそれがあります。

液状化危険度マップ

このマップは、稲城市に最も大きな被害があると想定される「多摩東部直下地震」における液状化の危険度を示したものです。



地震の被害想定(多摩東部直下地震)

稲城市の地震被害想定は、令和4年5月に東京都防災会議が公表した「首都直下地震等による東京の被害想定報告書」及び平成25年5月に東京都防災会議が公表した「南海トラフ巨大地震等による東京の被害想定」です。

稲城市に最も大きな被害があると想定される地震は、「首都直下地震等による東京の被害想定報告書」で示される「多摩東部直下地震(冬、風速8m/s)」であり、マグニチュード7.3、最大震度は6強、と想定されています。

多摩東部直下地震(冬、風速8m/s)での被害想定

被害区分		早朝	昼	夕方
建物被害	ゆれ・液状化による全壊	229棟	229棟	229棟
	ゆれ・液状化による半壊	1,123棟	1,123棟	1,123棟
	火災による焼失棟数(倒壊建物含まず)	45棟	56棟	90棟
人的被害	死者(合計)	15人	8人	11人
	・ゆれによる建物被害	12人	5人	8人
	・火災	1人	1人	2人
	・屋内収容物	1人	1人	1人
	負傷者(合計)	383人	263人	297人
	・ゆれによる建物被害	349人	236人	265人
	・火災	2人	3人	4人
その他	避難者	12,479人	12,532人	12,705人
	帰宅困難者	—	6,673人	6,673人
	・屋内収容物	31人	23人	23人
	・急傾斜地崩壊	1人	0人	0人
	・ブロック塀等	0人	1人	3人
要配慮者死者	9人	5人	7人	

※赤字が最大値

出典：東京都防災会議「首都直下地震等による東京の被害想定報告書(令和4年5月25日公表)」

生活復旧までの見通し

大地震が発生すると、ライフラインや交通機関等にも大きな被害が生じます。「首都直下地震等による東京の被害想定報告書」では、想定被害からのライフライン復旧に要する期間を公表しています。

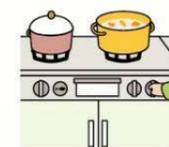
ライフラインが復旧するまで生活できるように、日頃から備蓄や災害への備えを進めておきましょう。

- 電力…… 停電被害・供給施設の復旧に1カ月程度
- 通信…… 通信遮断・停電被害の復旧に1カ月程度
- ガス…… 安全点検・都市ガス供給施設の復旧に約6週間
- 上水道… 断水の復旧に1カ月程度
- 下水道… 利用支障の解消に1カ月程度
- 鉄道…… 1ヵ月で約6割の区間が復旧

出典：東京都防災会議「首都直下地震等による東京の被害想定報告書(令和4年5月25日公表)」

ガスメーター(マイコンメーター)の復帰方法

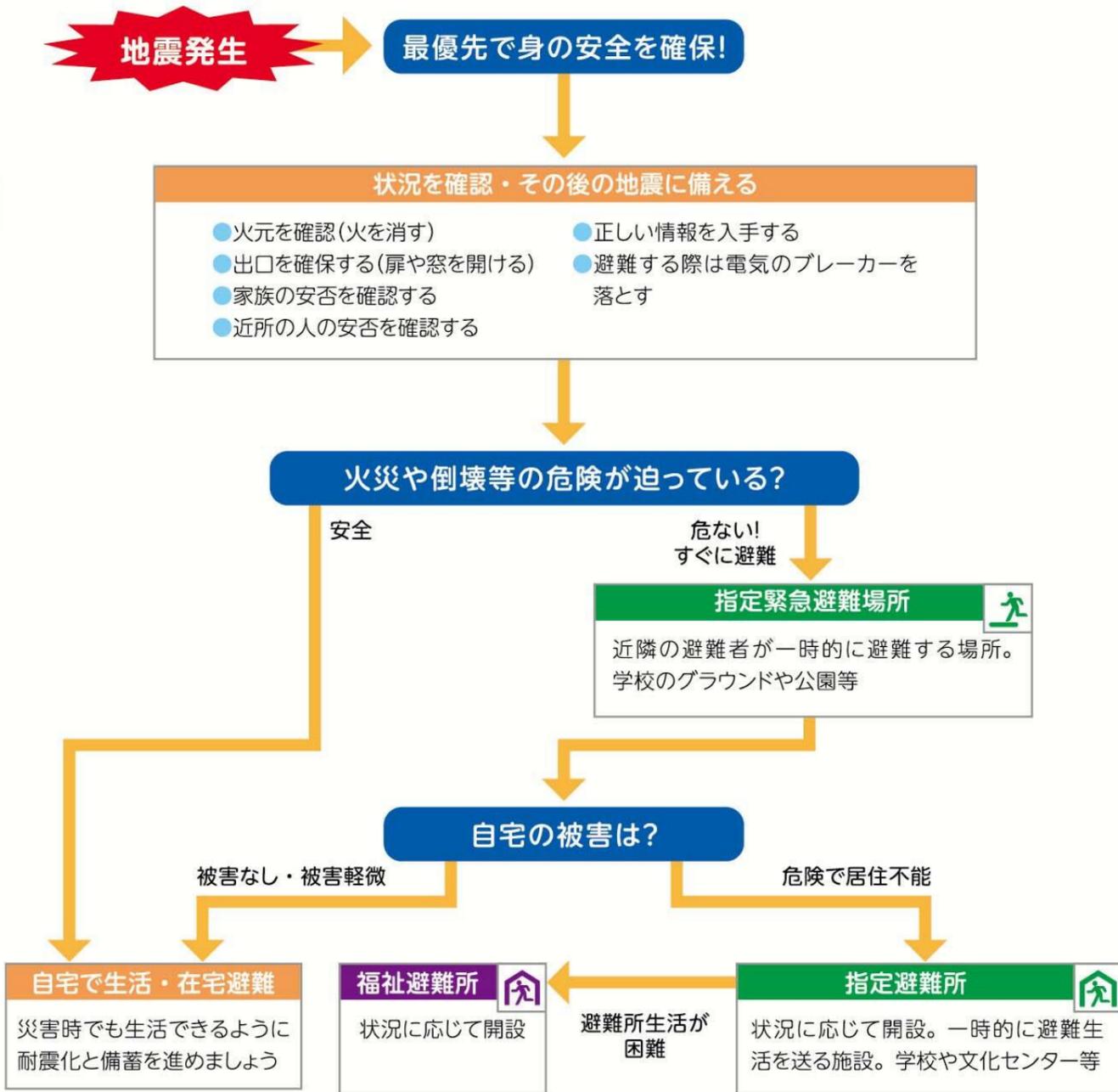
ガスメーターは、震度5程度以上の揺れを感知すると自動的にガスを遮断します。ガス機器の破損やガス漏れなどが無いことを確認した後、ガスメーターの赤ランプが点滅していたら、右記の復帰操作を行うことでガスが使えるようになります。



- ①屋内・屋外にあるすべてのガス機器を止めます。
- ②復帰ボタンを奥まで押し込み2秒待ちます。ゆっくり離れた後、3分待ちます。

地震発生時の行動

地震発生から避難までのながれ(自宅や建物内の場合)



避難施設の種類

指定緊急避難場所 
 災害が発生し、または発生するおそれがある場合にその危険から逃れるための場所。集合した人々の安全が確保されるスペースを有する学校のグラウンドや公園等。



指定避難所 
 災害の危険性があり避難した住民等を災害の危険性がなくなるまでに必要な間滞在させ、または災害により家に戻れなくなった住民等を一時的に滞在させるための施設。学校や文化センター等。



繁華街や外出先で被災した場合

道路・路地

- ブロック塀、自動販売機などのそばから離れる。
- 窓ガラスや看板、壁タイルの落下などに注意し、頭をカバンなどで保護する。



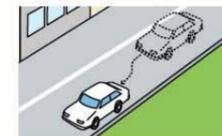
地下街

- 停電時は、非常照明が点くまでむやみに動かない。
- 館内放送や係員の指示に従い、一つの非常口に殺到せずに地上に出る。



運転中

- 徐々にスピードを落として、道路の左側に停車。
- エンジン进行を切り、揺れがおさまるまでは車内に留まる。
- 避難するときは、車のキーはつけたまま、ドアをロックせずに窓を開ける。



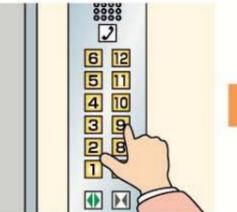
繁華街・大きな建物

- 商品棚から離れ、柱や壁際に身を寄せる。
- 最新のビルや地下街は耐震性が高いので、外には出ない。
- 店舗では場内放送や係員の指示に従う。
- 群衆雪崩の危険を避け、人が多そうな場所には行かない。



エレベーター内

- すべての階のボタンを押し、停止した階ですぐに降りる。
- 閉じ込められた場合は、非常ボタンを押し続け、非常用電話で助けを求める。



電車・バス

- 緊急停車・急ブレーキに備える。
- 座っている場合は姿勢を低くして頭部を守る。立っている場合は手すりやつり革をしっかり握る。
- 乗務員の指示に従う。



帰宅困難者対策

大地震が発生した場合、交通機関がマヒし、帰宅が困難になる場合が予想されます。無理に帰宅しようとせず、正確な情報を収集し、勤務先や避難場所で待機しましょう。

一斉帰宅の抑制

- 東京都は帰宅困難者対策を総合的に推進するため、「東京都帰宅困難者対策条例」を制定しています。
- 災害発生時は、むやみに移動を開始せず、安全を確認して職場や外出先等で待機しましょう。
 - 家族との連絡手段を複数確保しておきましょう。
 - 事業所は最低3日分の飲料水、食料等の備蓄に努めてください。

帰宅グッズの準備

- | | |
|------------------------------------|--|
| 職場のロッカーなど | 携行品 |
| <input type="checkbox"/> 飲料水 | <input type="checkbox"/> 現金(公衆電話用に10円硬貨) |
| <input type="checkbox"/> 携帯食料 | <input type="checkbox"/> ティッシュ・ウェットティッシュ |
| <input type="checkbox"/> 常用薬 | <input type="checkbox"/> 大判のハンカチ(手ぬぐい) |
| <input type="checkbox"/> 歩きやすい靴 | <input type="checkbox"/> マスク |
| <input type="checkbox"/> モバイルバッテリー | <input type="checkbox"/> 携帯トイレ |
| <input type="checkbox"/> 携帯ラジオ | <input type="checkbox"/> 連絡先メモ |
| <input type="checkbox"/> 地図 | <input type="checkbox"/> ホイッスル |
| <input type="checkbox"/> 懐中電灯 | |
| <input type="checkbox"/> 防寒着 | |

支援施設の活用

職場や学校等から徒歩帰宅が必要な場合に備えて、安心な経路と支援施設の場所を調べておきましょう。

一時滞在施設

待機する場所がない帰宅困難者を一時的に受け入れる施設。食料や毛布などを支援。庁舎や学校など。



災害時帰宅支援ステーション

帰宅困難者の徒歩帰宅を支援するため、可能な範囲で水道水やトイレ、情報などを提供する施設。コンビニエンスストアやガソリンスタンドなど。



キタコンDX

「キタコンDX」は、帰宅困難者に対してリアルタイムに情報を発信する「東京都帰宅困難者対策オペレーションシステム」の通称です。一時滞在施設の開設情報の確認や入館手続きが行えるほか、最寄り施設の検索、移動経路などが表示されます。「キタコンDX」の利用には、LINEアプリで「帰宅困難者対策支援」への友だち登録が必要です。



風水害・土砂災害

風水害・土砂災害を知る

洪水災害・浸水害

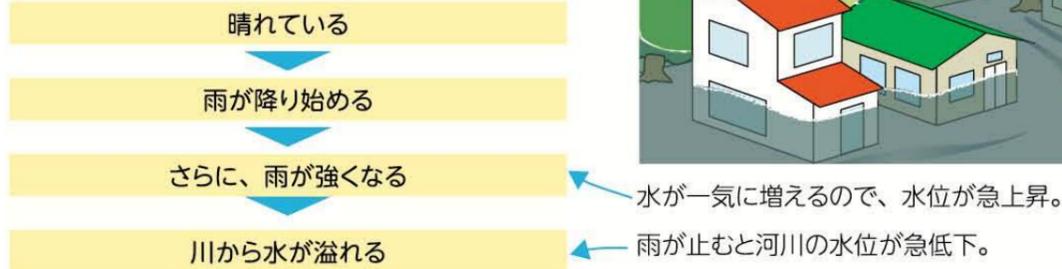
■ 洪水災害(外水氾濫)

「外水」とは、堤防の間を流れる河川の水のことを言います。外水氾濫は、堤防の決壊や越流などにより大量の水が市街地等に流れ込み、わずかな時間で住宅などへ浸水して人的・物的被害を発生させます。また、大量の泥や流木等と一緒に流れてくるため復旧に時間がかかります。



■ 河川の規模によって、氾濫の状況が異なります。

● 街中でよく見られる川の氾濫(三沢川など)

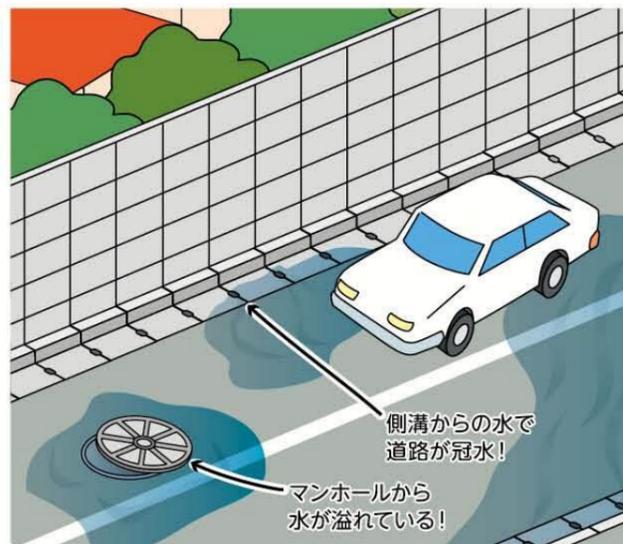


● 河川敷にグラウンドがあるような大きな川の氾濫(多摩川など)



■ 浸水害(内水氾濫)

河川の水を「外水」と呼ぶのに対し、市街地など堤防で守られた土地にある水のことを「内水」と呼びます。下水道や雨水マス等の排水能力を超える大雨が降ったり、河川の水位が上昇することで「内水」が排水できず、土地や道路などに水が溢れて浸水することを「内水氾濫」と言います。近年では宅地開発など都市化が進み、雨水が地面に浸透しにくくなっているため、内水氾濫が起きやすい状況にあります。ゲリラ豪雨のような局地的な大雨による内水氾濫は都市型水害の典型と言えます。

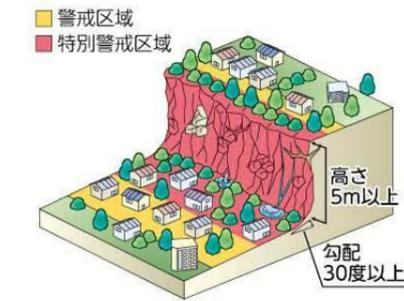


土砂災害

■ 土砂災害の種類

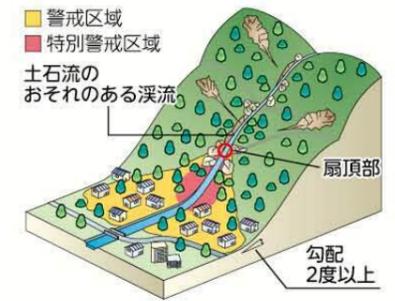
普段は安全な場所でも、台風や大雨、長時間の雨により地盤がゆるみ、地震などの影響で、土砂災害が発生することがあります。土砂災害には、急傾斜地の崩壊(がけ崩れ)、土石流、地すべりの3つの現象があります。稲城市ではこれらのうち、急傾斜地の崩壊(がけ崩れ)と土石流が発生するおそれがあります。

急傾斜地の崩壊(がけ崩れ)
斜面の土地が急激に崩れ落ちる現象です。



土石流

山や川の石や土砂が、大雨などにより水と一緒に激しく流れ下る現象です。



■ 土砂災害の警戒区域

土砂災害警戒区域 (通称：イエローゾーン)

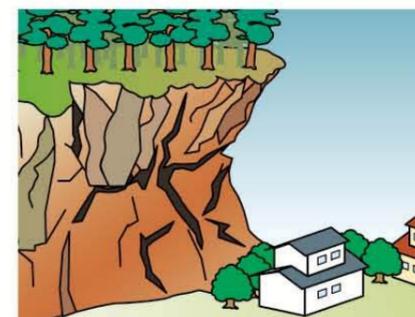
土砂災害が発生した場合に、住民等の生命又は身体に危害が生じるおそれがあると認められる区域であり、危険の周知、警戒避難体制の整備が行われます。

- 土石流の指定範囲
 - ・ 土石流の発生のおそれのある渓流において、扇頂部から下流で勾配が2度未満になるまでの区域
- がけ崩れ(急傾斜地の崩壊)の指定範囲
 - ・ 傾斜度が30度以上で高さが5メートル以上の区域
 - ・ 急傾斜地の上端から水平距離が10メートル以内の区域
 - ・ 急傾斜地の下端から急傾斜地の高さの2倍(50メートルを超える場合は50メートル)以内の区域

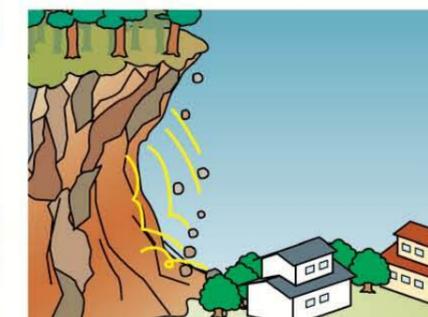
土砂災害特別警戒区域 (通称：レッドゾーン)

土砂災害警戒区域(イエローゾーン)の内側において、土砂災害が発生した場合に、建築物に損壊が生じ、住民等の生命又は身体に著しい危害が生じるおそれがあると認められる区域であり、特定の開発行為に対する許可制、建築物の構造規制等が行われます。

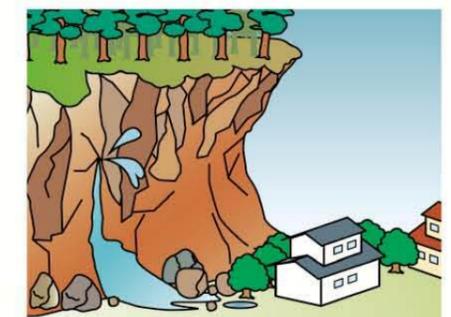
■ 急傾斜地の崩壊(がけ崩れ)の前兆現象



- 斜面に亀裂ができる。
- 斜面にはらみ(膨らみ)が見られる。



- 斜面から小石がパラパラと落ち出す。
- 斜面から異常な音、山鳴り、地鳴りが聞こえる。



- 普段澄んでいる湧き水が濁ってきた。水の噴き出しが見られる。
- 湧き水の急激な増加や減少、枯渇が認められる。

!! このような現象が確認できたら、直ちに避難してください!

避難情報・気象情報の確認

避難開始のタイミング

■ 多摩川の水位

- 多摩川には、水位にあわせて危険度を知らせる水位が設定されています。
- 稲城市は、石原水位観測所で水位を確認します。



石原水位観測所の水位設定

■ 警戒レベルと避難情報等

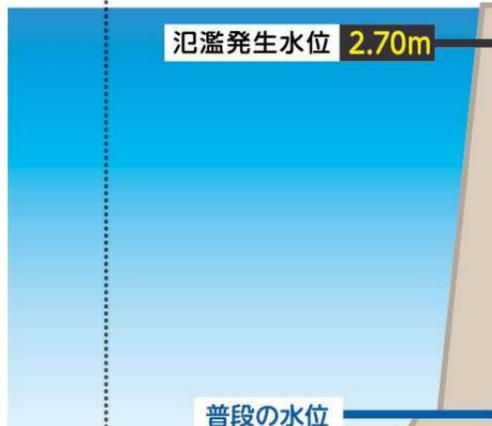
- 稲城市は、多摩川の石原水位観測所の水位等をもとに、避難情報を発令します。



※警戒レベルと避難情報等は、警戒レベルの下位から順に発表・発令されとは限りません。

■ 三沢川の水位

- 稲城市は、新田橋観測所で水位を確認します。
- 三沢川は、「短時間の降雨で浸水が発生する」「狭い範囲の降雨の継続状況を把握することが難しい」ことや、ほとんどの場合で立ち退き避難を必要としないことから、基本的に避難情報は発令しません。ただし、被害情報等をもとに避難情報を発令する場合は、直ちに避難指示を発令することがあります。



新田橋の水位設定

避難情報ととるべき行動

警戒レベルは災害発生の危険度を表し、レベルにあわせてとるべき行動が示されています。

■ 避難情報(市が発令)

避難の必要性を知る
災害が発生するおそれのある場合、市は、警戒レベルを付した避難情報を発令します。この避難情報は、気象庁から発表される防災気象情報等に基づきます。**気象情報と同等レベルの避難情報が、必ず同時に発令される訳ではありません。**「自らの命は自ら守る」という意識を持ち、適切な避難を行ってください。

■ 防災気象情報(気象庁等が発表)

天候や河川の状況を知る
気象庁は、大雨や暴風等による災害の防止・軽減のため、危険度の高まりに応じて注意報、警報、危険警報、特別警報を段階的に発表します。
大雨……台風や大雨に関する情報で、気象庁が発表します。
河川氾濫……指定河川の水位や流量等の情報で、気象庁と国土交通省または都道府県の機関が共同で発表します。
土砂災害……大雨による土砂災害発生の危険度に関する情報で、気象庁と都道府県が共同で発表します。

警戒レベル	避難情報	大雨	河川氾濫	土砂災害	とるべき行動
警戒レベル5	緊急安全確保	レベル5 大雨特別警報	レベル5 氾濫特別警報	レベル5 土砂災害特別警報	命の危険 直ちに安全確保!
~~~~~ < 警戒レベル4までに必ず避難! > ~~~~~					
警戒レベル4	避難指示	レベル4 大雨危険警報	レベル4 氾濫危険警報	レベル4 土砂災害危険警報	危険な場所から 全員避難
警戒レベル3	高齢者等避難	レベル3 大雨警報	レベル3 氾濫警報	レベル3 土砂災害警報	高齢者等は 危険な場所から避難
警戒レベル2	—	レベル2 大雨注意報	レベル2 氾濫注意報	レベル2 土砂災害注意報	ハザードマップなどで、災害想定区域や避難先、避難経路を確認してください。
警戒レベル1	—	早期注意情報	早期注意情報	早期注意情報	最新の防災・気象情報などを確認するなど、災害への心構えを高めてください。

警戒レベル5は、既に災害が発生、または切迫している状況です。災害の状況を確実に把握できるものではない等の理由から、必ず発令されるものではありません。  
警戒レベル3や警戒レベル4で、地域の皆さんで声をかけ合い、早期に安全・確実に避難を終えましょう。

※新たな防災気象情報(令和8年5月下旬運用開始予定)

## 洪水の危険度の確認

### ■ 観測所の水位を確認

多摩川の石原水位観測所、三沢川の新田橋観測所の情報は、下記の二次元コードを読み取ることで確認できます。観測所の水位のほか、カメラで現地の状況も見ることができます。



東京都 水防災 総合情報システム 新田橋



国土交通省 川の防災情報 石原水位観測所

### ■ 洪水・浸水等の確認

キキクル(危険度分布)は、洪水災害、浸水害、土砂災害の危険度の高まりをマップで確認できる気象庁のサービスです。危険度は5段階で色分けされており、「白(洪水災害は水色)→黄→赤→紫→黒」の順に危険度が高くなります。



「キキクル」画像出典：気象庁ホームページ

## マイ・タイムラインの作成

マイ・タイムラインは、いざという時にあわてることのないよう、避難に備えた行動を一人ひとりがあらかじめ決めておくものです。風水害からの避難に必要な知識を習得しながら、家族で話し合って、マイ・タイムラインを作成することにより、適切な避難行動を事前に整理しましょう。東京都防災ホームページでは、マイ・タイムラインの作成コンテンツ「東京マイ・タイムライン」を提供しています。



東京マイ・タイムライン

# 風水害・土砂災害時の行動

## 避難行動

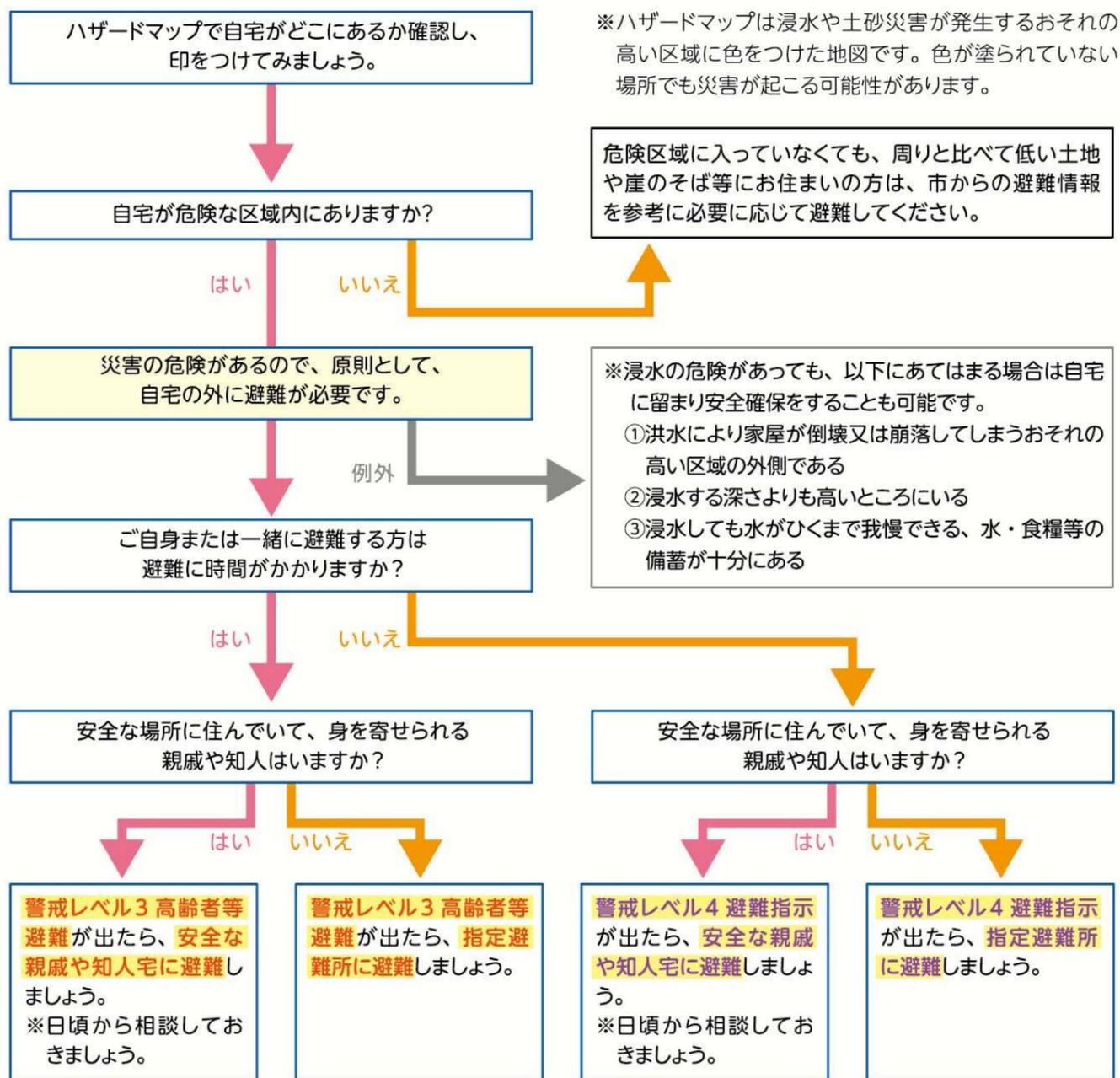
### ■ 基本は「立ち退き避難」

避難行動は、災害が発生する前に浸水や土砂災害の危険性がある場所から避難する「立ち退き避難」が基本です。

あらかじめ避難経路を複数決めておき、その中から安全に通行できる経路で避難しましょう。



## 風水害時の避難行動（避難行動判定フロー）



## 適切な避難先の確保

避難＝「避難所に行くこと」ではありません。

避難とは「難を避ける」ことです。避難所に行くことだけが避難ではありません。避難所以外の安全な場所に避難する方法（分散避難）も検討しましょう。

### ■ 立ち退き避難

**指定避難所への立ち退き避難**  
指定避難所の居室や体育館等で他の避難者たちと一緒に過ごします。非常持出品を持参しましょう。



### ■ 親戚・知人宅への立ち退き避難

普段から災害時に避難する可能性があることを相談し、避難する前に必ず連絡しましょう。

### ■ ホテル等宿泊施設への立ち退き避難

事前に予約状況を確認しましょう。交通費や宿泊料は避難者の自己負担になります。

### ■ 屋内安全確保

立ち退き避難が間に合わない・立ち退き避難が危険な場合立ち退き避難をする時間がない、豪雨や夜間等のため立ち退き避難に危険が伴う、といった場合は、近くの堅牢な建物の浸水しない上層階や、自宅内で崖や河川側等の危険な場所から最も離れた高い所に避難します。



## 立ち退き避難の注意点

### ■ 避難ルートを確認する

平常時に安全な避難ルートを確認しておきましょう。河川や橋の近く、アンダーパスやくぼ地がある場所は、避難ルートから除外します。

### ■ 早めの避難をこころがける

夜間や浸水してからの立ち退き避難は極めて危険です。テレビ等で防災情報を確認し、身の危険を感じたら避難指示等の発令を待たずに自主避難を開始しましょう。

### ■ 避難の際はひと声かけて

単独行動は避けましょう。近所に高齢者等の避難行動に時間のかかる方がいる場合は、声をかけて一緒に避難しましょう。

### ■ 浸水の中を歩かなければならないとき

水の中を歩ける深さの目安は膝下までです。流れが速い場合は浅くても危険です。

傘や長い棒を杖にして、水の中の障害物や蓋の外れたマンホール等を確認しながら歩きます。切れた電線等、危険が感じられる場所には近づきません。



はだしや長靴は禁物。動きやすい運動靴をはきましょう。

## 屋内安全確保の注意点

大雨時は、湿度が高くなり衛生状況が非常に悪くなるおそれがあります。自宅周辺の浸水により、ライフラインが使用不可となるおそれがあります。体調を崩しても、すぐに救助が来ることは難しいと考えられます。

**屋内安全確保は緊急事態を回避する最終手段です！**

## 車両での避難

車での避難は、危険を伴うことや緊急車両の通行の妨げになるため、原則として徒歩で避難してください。ただし、車両での避難が必要な高齢者や体の不自由な方、乳幼児を連れた方、妊産婦等の要配慮者は、車両避難もひとつの避難手段となります。

# 台風への備え

## 台風のおおきさ・強さ／風の強さ

台風は、最大風速(10分間平均)がおおよそ17m以上の熱帯低気圧で、風速(10分間平均)をもとに「おおきさ」と「強さ」を表現します。

### ■ 台風のおおきさ

階級	風速 15 m/s以上の半径
大型(おおきい)	500km以上～800km未満
超大型(非常におおきい)	800km以上

### ■ 台風の強さ

階級	最大風速
強い	33m/s以上～44m/s未満
非常に強い	44m/s以上～54m/s未満
猛烈な	54m/s以上

### ■ 風の強さ

強さ	平均風速(m/s)	人への影響
やや強い風	10m以上～15m未満	風に向かって歩きにくくなる。傘がさせない。
強い風	15m以上～20m未満	風に向かって歩けなくなり、転倒する場合もある。高所での作業は極めて危険。
非常に強い風	20m以上～30m未満	何かにつかまらなると立っていられない。飛来物によって負傷するおそれがある。
猛烈な風	30m以上	屋外での行動は極めて危険。

## 台風接近時の対応

### ■ 最新の台風情報を確認

- 台風の最新情報を確認します。
- 大雨や暴風、天気予報、雨雲の動き等も確認します。



### ■ 避難先の再確認

- 避難先の場所や、避難先までの安全な経路等を確認します。宿泊施設等を利用する場合は、空室状況の確認や宿泊予約を行います。

### ■ 車両の退避

- 車を浸水想定区域から移動させます。
- 日頃から退避場所(高所にある時間貸し駐車場など)を事前に決めておきます。

### ■ ライフライン断絶に備える

- 備蓄品と非常持出品を確認し、準備します。浴槽に水を張る、バケツやポリタンクに水を汲む等の準備をして、生活用水を確保します。

## 家屋の台風対策

### ■ 屋外の点検

- 庭木に支柱をたて、物干し竿等は、しっかり固定します。鉢植えやサンダル等を取り込みます。

### ■ 側溝、雨水ますの清掃

- 道路の側溝や雨水ますを掃除します。敷地と道路の段差を解消するスロープ等は側溝の上には置けません。

### ■ 窓や雨戸への事前対応

- 窓にガラスのひび割れや窓枠のガタつき等がないか調べ、ガラスに養生テープを貼るなどして補強します。カーテン等は閉めておきます。

### ■ 床上浸水への事前対応

- 家財道具や貴重品等は、高所や安全な上階に移動させます。家電製品等はコンセントからプラグを抜き、漏電、感電、ショート等の発生を予防します。

### ■ 排水口からの逆流防止

- 水のうを風呂場や洗濯機の排水口やトイレの便器の水たまりの上に置き、汚水逆流を防ぎます。

### ■ 土のう、止水板の準備

- 浸水に備えて、土のうや止水板を準備し、半地下や地下室には排水ポンプを設置します。

## 集中豪雨・雷・竜巻

### ■ 集中豪雨

集中豪雨は、前線や低気圧等の影響や雨を降らせやすい地形の効果により、積乱雲が同じ場所で次々と発生・発達を繰り返すことにより起きる現象です。激しい雨が数時間にわたって降り続き、狭い地域に数百mmの総雨量をもたらします。

#### 積乱雲が近づくサイン

- 黒い雲が近づき、周囲が急に暗くなる。
- 雷鳴が聞こえる、雷光が見える。
- 急に冷たい風が吹き出す。
- 大粒の雨やひょうが降り出す。



#### 雨の強さ

強さ	1時間雨量(mm)	人の受けるイメージと人への影響
やや強い雨	10mm以上～20mm未満	ザーザーと降る。地面からの跳ね返りで足元がぬれる。
強い雨	20mm以上～30mm未満	どしゃ降り。傘をさしていてもぬれる。
激しい雨	30mm以上～50mm未満	バケツをひっくり返したように降る。
非常に激しい雨	50mm以上～80mm未満	滝のように降る(ゴーゴーと降り続く)。傘は全く役に立たなくなる。
猛烈な雨	80mm以上	息苦しくなるような圧迫感がある。恐怖を感じる。

### ■ 雷

雷は、大気中で大量の正負の電荷分離が起こり、放電する現象です。放電する際に発生する音が雷鳴で、光が電光です。湿った空気が激しく上昇して上空の低い温度の層に達すると「あられ」や氷晶が多量に発生し、雷雲となります。



#### 雷から身を守る

- 鉄筋コンクリートの建物や車の中等に避難する。木造建築の場合、すべての電気器具、天井・壁から1m以上離れると更に安全。
- 建物が見当たらない場合、電柱等の高い物体の頂点を45度以上の角度で見上げる範囲で、その物体から4m以上離れたところ(保護範囲)に退避する。姿勢を低くし、持ち物は体より高く突き出さない。

### ■ 竜巻

竜巻は、積乱雲に伴う強い上昇気流により発生する激しい渦巻きです。被害は数分～数十分で長さ数km～数十km・幅数十m～数百mの狭い範囲に集中し、被害域は帯状となります。

#### 竜巻の前兆

- 雲(積乱雲)の底から地上に伸びる。漏斗状の雲がある。
- 飛散物が筒状に舞い上がる。
- 普段と違う「ゴー」という音がする。
- 気圧の変化により耳に異常を感じる。



#### 竜巻から身を守る

- 頑丈な建物の中に駆け込む。車庫、物置、プレハブは危険。
- 頑丈な構造物の物陰に入り、身を小さくする。
- 家の1階で中心部に近い窓のない部屋(トイレ等)に移動し、雨戸やカーテンを閉める。
- 窓やドア、外壁から離れる。

## 土のうステーション

冠水や浸水などの被害を未然に防ぐため、市民の方が自由に土のうを持ち出せる「土のうステーション」を、消防団の詰所8か所に設置しています。必要に応じて各自でお持ちください。



#### 土のうステーション設置場所

名称	所在地	名称	所在地
第一分団詰所	矢野口2271-1	第五分団詰所	坂浜974
第二分団詰所	東長沼590-1	第六分団詰所	平尾1-41-14
第三分団詰所	大丸546-4	第七分団詰所	押立825
第四分団詰所	百村2017	第八分団詰所	長峰2-31-1

※持ち出した土のうは戻さず、各自で処分してください。

# その他の災害

## 雪害・火山災害

### 雪害



#### 雪害への事前準備

雪害への事前準備は、右記や風水害に準じたものになりますが、雪が止んだ後に被害や事故が発生することがあります。除雪作業等は注意して行いましょう。

- 凍結防止剤や融雪剤を撒く。(雪の降る前や降り始めが効果的)
- 車庫などは雪の重みに耐えるように、屋根や柱を補強する。
- 大型のスcoopを用意する。

#### 雪害での注意事項

##### 情報収集・事前行動

大雪警報等の気象情報に注意しましょう。

##### 積雪で家に閉じ込められたら

停電等に備え、寒さ対策を考えておきましょう。生命に関わる危険な場合は、119番通報してください。

##### 頭上と足下に注意

屋根の雪が大きな塊になって落下する場合があります。歩行等通行中は足元に注意するとともに、頭上にも十分注意しましょう。

##### 除雪活動

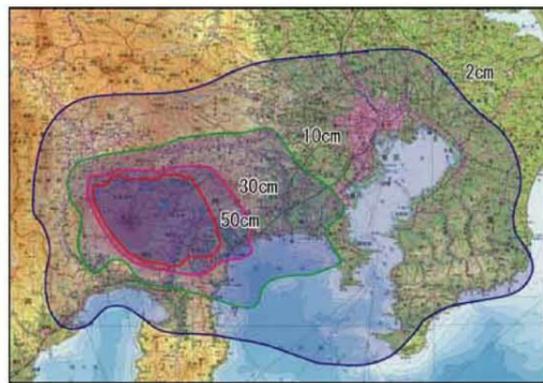
自宅の除雪は、カーポート等の屋根部分や玄関ドアの近く等、危険が無い範囲でこまめに除雪しましょう。都・市は、所管する幹線道路を中心に、除雪作業を行います。自宅周辺は、ご近所で助け合い、通行路の確保、孤立・閉じ込めの解消に協力してください。

##### 自動車通行の注意点

交通規制には必ず従ってください。雪用タイヤまたはチェーンを装着しない車は運転を控えてください。山沿いの通行では、雪崩に注意してください。

## 火山災害

稲城市に火山被害を及ぼすおそれのある山は、富士山と箱根山です。このうち富士山噴火による降灰被害は、少量の火山灰であっても社会的影響が大きいと考えられ、市周辺では2cm～10cm程度の降灰が想定されています。



出典：中央防災会議「富士山火山広域防災対策基本方針」

#### 富士山の降灰による影響

##### 身体への影響

- 火山灰が目に入ると、ごろごろしたり、こすると目の表面に傷ができることがあります。
- 火山灰を大量に吸い込んだ場合、鼻やのどに異常が出たり、呼吸器疾患等が悪化するおそれがあります。

##### 生活への影響

- 電力…… 降雨時3mm以上の降灰で碍子(がいし：電線等を支える器具)の絶縁低下による停電が発生します。
- 上下水道… 河川の水質悪化により、浄水場で水質基準超過のリスクがあります。下水管の閉塞により雨水が溢れます。
- 通信…… 降雨時に、火山灰が基地局等の通信アンテナに付着すると、通信を阻害します。
- 道路…… 自動車(二輪駆動車)は乾燥時10cm以上、降雨時3cm以上の降灰で通行不能になります。
- 鉄道…… 微量の降灰で地上線路の運行が停止します。

##### 注意点

- 不要不急の外出を控えましょう。
- 外出時はゴーグルや眼鏡、マスクを着用し、コンタクトレンズは着用をやめましょう。
- 屋内への入出時は服や髪に付着した灰を払いましょう。
- ドアや窓をしっかりと閉め、通気口やドアの隙間はタオル等で塞ぎましょう。エアコンの室外機にカバーをかけましょう。
- 火山灰は水を含むと固まるため、排水口に流さないようにしましょう。

## その他

### 武力攻撃、大規模テロ、ミサイル攻撃等

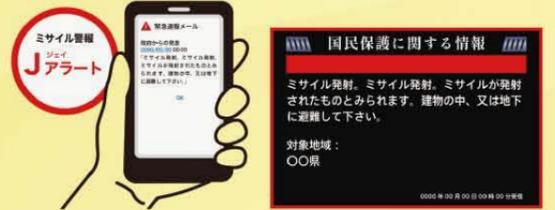
万一、発生した場合は、国、都、市が連携協力して、国民保護計画に基づき、住民の避難や救援、被害の最小化等の国民保護措置を実施します。

市民に危険が及ぶと判断された場合は、市民への屋内退避を呼びかけます。

なお、ミサイル攻撃の場合は、ただちに屋内避難しますが、可能な限りコンクリート造りの建物内に退避してください。家屋内においても、可能な限りマスク等を着用し、水道水は安全が確認されるまでは飲用せず、家庭の備蓄飲料水を飲んでください。

落ち着いて行動し、身の安全の確保と正確な情報収集に努めてください。

## 弾道ミサイル飛来時の行動について



弾道ミサイルは、発射からわずか10分もしないうちに到達する可能性もあります。

弾道ミサイルが着弾した場合、激しい爆風や破片などにより、身体へ大きな被害を受ける可能性があります。

弾道ミサイルが日本に飛来する可能性がある場合は、Jアラートを通じて屋外スピーカーや携帯電話の緊急速報メール等によりメッセージを流します。

### メッセージが流れたら直ちに以下の行動をとってください

弾道ミサイルが上空を通過した場合など避難行動をとる必要がなくなった場合は、避難の呼びかけを解除します。

**屋外にいる場合** 爆風や破片などを避ける

**屋内にいる場合** 爆風で割れた窓ガラスなどを避ける

**近くの建物の中**  
または **地下へ**

緊急一時避難施設*をはじめ、コンクリート造り等の頑丈な建物や地下街、地下駅舎等の地下施設へ避難することが望ましいですが、それ以外でも構いません。

* 緊急一時避難施設：弾道ミサイル攻撃による爆風等からの直接の被害を軽減するための一時的な避難に活用する観点から都道府県知事等が指定する施設。

近くに建物がない場合は

**物陰に身を隠す**  
または **地面に伏せ**  
**頭部を守る**

その場で安全を確保し

**窓から離れる**  
または **窓がない部屋へ**

詳しくは、内閣官房国民保護ポータルサイトへ

出典：内閣官房「国民保護ポータルサイト」

#### 緊急事態時に全国瞬時警報システム(Jアラート)

全国瞬時警報システム(Jアラート)は、大きな地震や気象、火山の噴火等の自然災害や、武力攻撃等の国民保護に関わる情報など、対処に時間的余裕のない緊急事態に関する情報を、国(総務省消防庁)が人工衛星や地上回線を通じて配信します。

その情報を市が受信すると、防災行政無線を自動的に起動して、サイレンや音声放送で市内全域に瞬時に伝達します。

##### 配信される緊急情報

- 気象等の特別警報
- 緊急地震速報
- 噴火速報
- 航空攻撃情報
- ゲリラ・特殊部隊攻撃情報
- 大規模テロ情報
- 弾道ミサイル情報
- 緊急に伝達することが必要な国民保護に関する情報

